



今回は特別号として令和7年2月22日に鹿沼市民情報センターのマルチメディアホールにて行われた「第2回 自治会とNPOとの交流会」に関して内容をご報告いたします。

次第

1. 講演

講師：宇都宮共和大学シティライフ学部 教授：陣内雄次

演題：「餅は餅屋」の接続可能な地域づくり

2. 事例発表

・地域のチカラ協働事業：東大芦地区コミュニティ推進協議会

・市民協働モデル事業：磯GO！みらいの会

3. NPOと自治会との交流

1. 講演

講師：宇都宮共和大学シティライフ学部 教授：陣内雄次

「餅は餅屋」の接続可能な地域づくり

自治会＝地縁型組織

- ・皆が責務を持ち役割分担
- ・限定地域(自治会範囲内)

×

NPO＝テーマ型組織

- ・共感,共通するテーマ活動
- ・活動地域は限定なし

× α



●双方が一緒に取り組むメリット

- ・自治会→自治会とNPO双方の活動の結合で地域問題への対処の専門性向上
- ・NPO →自治会と協働で取り組むテーマがさらに地域課題に発展
- ・α →暮らしに関わる財やサービスを持った企業や民間組織を巻き込む

➔ **分野や領域を超えた共創により持続可能な地域が創れる**

2. 事例発表

●地域のチカラ協働事業：東大芦地区コミュニティ推進協議会

健康のまちづくりは各種イベントを復活させ地域住民の絆が強化された。交流機会促進は今後の課題。災害に強い地域づくりは自主防災研修・市防災訓練参加・地区防災訓練開催と福島県語り部派遣事業による伝承会開催等で防災意識の向上と住民参加の環境づくりを行った。



●市民協働モデル事業：磯GO！みらいの会

地域人口の減少に危機感を覚えた若者中心の活動で、主にイソマチマルシェを開催している。イチゴのブランド化や新鮮野菜の販売、キッチンカーの出店など様々な取組を行い活性化に貢献。その他休耕田の有効活用や空き家対策にも力を注ぎ効果を上げつつある。



3. 自治会とNPOとの交流

詳細は裏面参照

今回、14自治会、9団体のNPOが参加し「防災や環境」、「子育て」、「福祉」、「観光やまちづくり」のテーマで活発な意見交換を行い実際の提案も生まれました。参加者は各分野で活動の充実、拡大を目指している方々ばかりで、交流を通じ「より良い地域社会をつくる」一步を歩めたと感じます。参加者からもお互いを知り&つながる良い機会と好評でした。

まとめ

- ・周辺の自治会と交流を進め、活動範囲を広げ新たな取り組みや補完を進める
- ・自治会（地縁型組織）やNPO（課題解決型組織）がお互いの強みを発信し双方が活動を理解し、協働していく
- ・ふらっとは、それぞれが「つながる仕組みづくり」と「人材サポート」に貢献していく

3. 交流（各グループ詳細）

グループ1（福祉、子育て）

- ・大学との連携で農村交流を行ってきたが、人口減少や学校編成の変化で参加が減って困って来ている自治会がある。別の自治会でも、自治会内の子どもの数が減り、満足な活動ができず困っていることから、両者が連携し、広域で農村交流を行う方向で検討。
→つながりや意見交換ができ、参加してよかった。

グループ2（子育て）

- ・地縁団体では、防災活動や会員の年齢層に応じた活動を行っているが、人手不足でうまく進まない状況。
- ・テーマ型団体では、困りごと情報を入手したり、子育て支援、スポーツ支援、就職支援など様々な活動を実施。
- 自治会、NPOそれぞれが自分たちの強みや困りごとを発信 & 相手への興味を持つことが必須

グループ3（子育て）

- ・地縁団体では子育て支援、高齢者福祉、居場所づくりなど様々な活動を実施。
- ・テーマ型団体では、家庭教育の支援、子どもの発達に応じた支援などを実施。
- 連携に関して複数の案が挙がり、その内の1つは実現が決まった。それぞれが抱える課題や悩みを話し合い、「こんな協力ができる」などの意見が飛び交い、連携のイメージも膨らみ話が盛り上がった。

グループ4（防災）

- ・テーマ型団体では、東日本大震災などでの支援活動をもとに、自治会と連携し防災力向上の取り組みを支援。
- ・地縁団体では、頻発する水害への対応で防災力がアップしている。一方、核家族や高齢者単身世帯の増加などにより、防災意識の温度差があり、巻き込みに苦慮。
- グループの総意として“地縁団体同士の情報交換や連携の機会があると良い”とまとめる。

グループ5（防災、環境）

- ・地縁団体では、「自分たちの地域は自分たちで守る」をキーワードに、様々な活動を実施中。地域住民との話し合いを重ね、地域の資源や力、課題などが見えてきている。
- 参加者が抱える課題について、専門にしているテーマ型団体につなぐ支援をふらっとで実施予定。

グループ6（観光、まちづくり）

- ・地縁団体では、住民の困りごとの本音を引き出すのが難しく、課題が明確化しにくい。加えて、高齢化や未加入世帯増加などにより地縁団体に関わる人も減少。
- 地元愛が薄れてきていることも要因。地元の良いところを積極的に発信することが重要ではないか

当日
の様子



発行：かぬま市民活動広場ふらっと（NPO法人かぬま市民活動サポーターズ）

住所：鹿沼市下横町1302 まちなか交流プラザ1階 開館日：月～土 9:00-21:00 日祝 9:00-19:00（水曜定休）

TEL：0289-60-2212 / FAX：0289-60-2213 E-mail：sapo@kanuma-flat.org URL：https://www.kanuma-flat.org